

■事業者が多数隣接するエリアにおける関係者間の情報共有を円滑化し、災害対策活動の高度化に資するため、屋内電子地図を活用した俯瞰型情報共有サービスについて、本実証を通じて効果検証する。

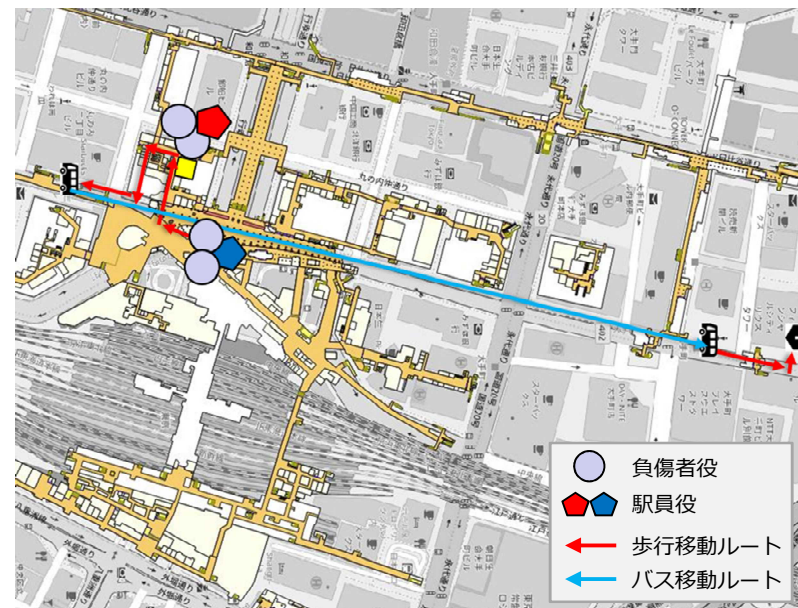
## 【実施概要】 災害時の周辺状況、負傷者搬送対応等を俯瞰するサービス実証

本事業で整備した高精度な屋内地図(国土地理院仕様に準拠)に、警備員等の移動型カメラによる周辺状況や、災害対策要員等による負傷者搬送対応の状況をスマートフォンの位置情報を用いてプロットし、エリアの全体状況を俯瞰可能とするサービスについて、災害時における導入効果や課題を検証する。

- 大手町・丸の内・有楽町地区都市再生安全確保計画※の取組と連携し、大地震による災害時にエリア内で発生した負傷者を、事業者の災害対策要員等がエリア循環バスで医療施設へ搬送する防災情報訓練を共同実証実験として実施。
- WEB画面に災害時に必要な情報をワンストップで提供し事業者間で共有する「災害ダッシュボード2.0」を使用し、固定カメラや移動カメラからのLIVE映像や災害対策要員・負傷者・医師・看護師等の位置及び負傷者の状態(電子トリアージタグの色)を屋内外の電子地図と組み合わせ表示。
- WEB画面を通じて、実証実験災害対策本部の他、千代田区、鉄道事業者、ビル事業者等が俯瞰し、幅広い情報共有。

## 【実証エリア】

・東京駅周辺エリア(屋外エリア含む)

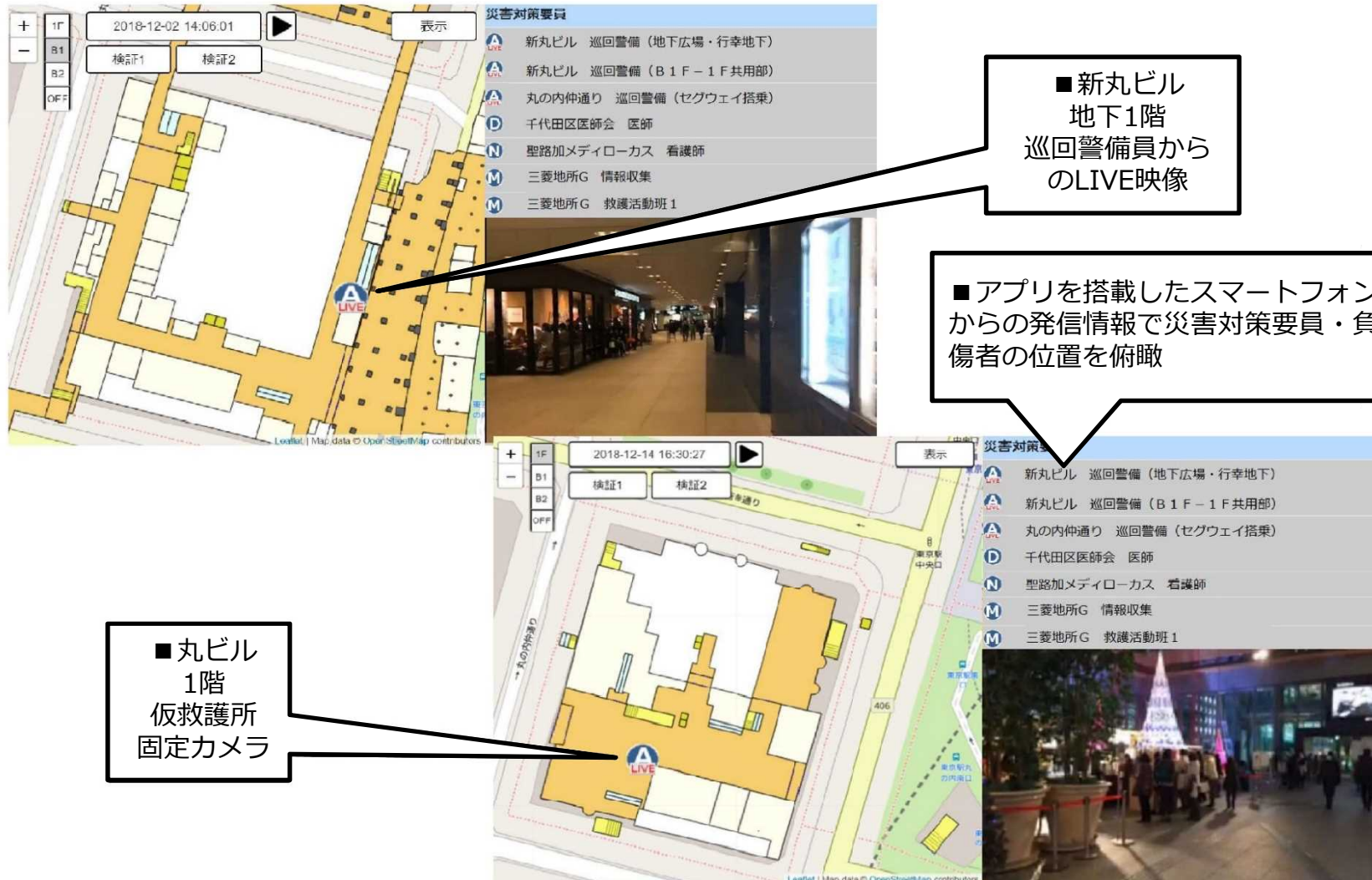


<負傷者バス搬送ルートの場合>

※「都市再生安全確保計画」とは、大規模な地震が発生した場合における滞在者等の安全の確保を図るため、官民で組織する都市再生緊急整備協議会が作成する計画。「大手町・丸の内・有楽町地区」については、東京都心・臨海地域都市再生緊急整備協議会が平成27年3月に作成(最終改訂平成30年3月)。

# 「災害ダッシュボード2.0」 屋内電子地図上での情報共有

■災害ダッシュボードへ屋内電子地図を組み込み、専用アプリを搭載したスマートフォンの位置情報を活用し、固定カメラや巡回警備員からのLIVE映像による周辺状況と合わせ、災害対策要員や負傷者等の位置情報を俯瞰。



画面イメージ

# (参考)災害ダッシュボード2.0の概要

- 利用対象想定: 災害対策を担う官(千代田区)・民(鉄道事業者・ビル事業者など)
- 仕組み: クラウド型の情報共有
- 大丸有周辺LIVE映像と負傷者等位置情報の収集アプリ  
(高精度測位社会プロジェクトの屋内電子地図、スマートフォンによる屋内位置測位を含む)
- SNSでのメッセージ共有(利用対象者限定)
- WEB画面でワンストップ(Twitterのオープン情報等の収集含む)



- 俯瞰は3タイプ  
ビル内, 駅周辺, 大丸有
- 屋内外の電子地図とライブ情報のページを展開
  - ・ 移動警備LIVE
  - ・ 巡回バスLIVE
  - ・ 位置情報  
負傷者(トリアージ)  
警備員  
災害対策要員  
医師  
看護師 など

- 固定カメラ  
千代田区災害対策本部  
東京駅、有楽町駅、聖路加メディローカス

- 限定SNS  
メッセージ共有 (デモレベル)

- 公式Twitterの収集  
首相官邸、内閣府、東京都、千代田区、NHK、東京メトロ、東京都交通局、など

※本資料は三菱地所株式会社より提供いただいた資料を基に作成